

検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報[号外] 2009年10月5日 発行 日本鉄道労働組合連合会(JR連合)【No. 53】

JR総連は革マル活動家の「国際労働総研」との関わりを説明せよ！

前号に続き、革マル活動家の小西氏、神保氏について検証したい。九州労大量脱退事件直後の10月9日、革マル派活動家の小西氏、神保氏、浅野氏が九州労本部に乱入する事件が発生した。九州労の「組織部報」(223号、2000年10月10日)を紹介する。

本部に「侵入」、そして「暴力」「窃盗」 小西・神保・浅野による蛮行を許すな！

10月9日、14時30分頃、小西・神保・浅野(革マル派と思われる)3人が、勝手に本部事務所に入ってきた。彼らは「狩生、北はどこだ」「九州労破壊を行っているのはお前らだ」「俺たちがつくった九州労を壊されて黙ってられるか」などと、一方的に怒声・暴言を繰り返した。そして挙げ句の果てに、杉山書記長に対し「暴力」をふるった。さらに、役員がトイレや電話の対応に追われるさなか、組織重要書類を「窃盗」したことも判明した。また、支部事務所や社宅、自宅などを訪問したり、ビラ配布・訪問などを行っていることも発覚した。JR総連・JR九州労への組織介入・破壊に手を貸してきたのは奴らではなかったのか「盗っ人たけだけしい」とはこのことだ！本部は、10月5日の「集団脱退問題」以降、事態の把握、情報の収集・調査を行い、緊急の諸会議を開催しながら、反撃の体制づくりを行っている最中の、こうした「革マル派」による蛮行、介入を断じて許すことはできない。-(後略)-

さらに坂入氏は、前号に掲載したJR総連の告発状に対し、「私を利用し、革マル派を権力に売り渡すJR総連の一部指導者を弾劾する！」との声明を、革マル派機関紙「解放」(1649号、2000年12月18日)に掲載した(No.32参照)。一部を紹介したい。

-(前略)-皆さんは「告発状」それ自体を読んだことがあるのだろうか。実際大変なことが書かれているのである。まず文中に固有名詞がずらりと出てくる。A、J、KおよびK夫人、国鉄時代から組合に若干でも関わっていた人ならすぐ思い出すはずである。国鉄労働者としてともにスクラムを組んで闘った仲間だからである。昔の革マル派系全学連書記長の名前も出てくる。当然、警察権力は「告発状」を手にとれたらこれらの人たちの逮捕を考えるはずである。いや現に、A、J宅は権力の監視下におかれているのだ。たとえ今対立があったとしても、実名を伏せるぐらいの配慮は出来ないものなのか。まったく常軌を逸しているといえようがない。-(後略)-

「九州労大量脱退事件」「坂入事件」の真相を直ちに説明せよ！

JR総連と九州労は、小西・神保氏と、坂入氏を拉致した浅野氏を革マル派活動家と断じている。その人物が現在、「国際労働総研」に深く関わっていることをどう説明するのか。また事件当事者の九州労は、彼らが「JR総連・JR九州労への組織介入・破壊に手を貸してきた」「盗っ人たけだけしい」と断罪した。前号でみたJR総連の告発状では、小西光子氏が、坂入氏が「九州労大量脱退事件」の真相を語ったことについて述べた経過を指摘し、彼らが坂入氏を拉致した仲間だとしている。坂入氏の「解放」の声明でもA(浅野氏)、J(神保氏)、K(小西氏)を革マル派活動家とみていることは明らかだ。JR総連は自ら三氏が「大量脱退事件」「坂入事件」の真相を知っていると述べているのだから、今すぐ身内の小西氏と神保氏から事情聴取して事件を解明すればよいではないか。ここまでくると、JR総連に革マル派が浸透しているというより、革マル派そのものとみるべきであろう。

「検証・JR革マル浸透と組織私物化の実態！」はJR連合ホームページに掲載中！ <http://homepage1.nifty.com/JR-RENGO>

検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報[号外] 2009年10月7日 発行 日本鉄道労働組合連合会(JR連合)【No. 54】

JR総連・東労組の裁判で闇の実態解明はさらに進む！

JR総連・東労組は、10月31日、日比谷公会堂で「弾圧から7年！労働組合活動を犯罪とした暴挙に抗し上告審に勝利する 10・31 集会」を開催するそうだ。彼らには内ゲバ被害者を偲ぶ日など、特異な記念日が多数あるが、当日は、2002年に当時の東労組・嶋田副委員長や現JR労組委員長の本間氏ら8名の役員が東労組元会長の松崎氏を頂点とする“本部派”と袂を分かって辞任した「背信を忘れない日」、11月1日は、同年、浦和電車区事件で加害者7名が逮捕された「大弾圧を忘れない日」である。役員らには特別な時期かも知れないが、一般組合員にとってはいい迷惑だろう。

そして、嶋田元副委員長らが結成した「JR東労組を良くする会」作成の「JR革マル派43人リスト」に対し、革マル派と名指しされた松崎氏ら43名は、2008年9月、リスト作成者9名を相手に民事提訴した。現在、審理の最中だが、今後、被告側からリストの記載内容の真実性を主張すべく、組織の中核にいた者にしか知り得ない貴重な情報が明らかにされることは間違いない。さらに、JR総連元会長の福原福太郎氏が「谷川忍」名で「小説労働組合」(2005年6月発行)を執筆し、松崎氏らをモデルにした「小説」の形で、同氏の独裁的な組織運営や私物化の実態など、JR総連・東労組の内部事情を明らかにしたが、松崎氏とJR総連、東労組は、2008年12月、福原氏を相手に同じく民事提訴した。福原氏は、松崎氏と運動を共にしてきた右腕的存在であり、この裁判でも、隠された真実の解明がさらに進むことは疑いが無い。先にも指摘したが、これらはJR総連・東労組にとって、革マルとの関係や組織私物化の実態を暴露される危険性の高い裁判だ。革マル派弁護士とみられるW氏やH氏が代理人となっているのは、彼らの危機感の高さの表れであろう。

「反スタは忘れるな！」と述べた東労組・石川前委員長

ところでリスト裁判の被告でもある本間氏は、「週刊現代裁判」の証人尋問で、役員退任時、東労組前委員長の石川尚吾氏と、お互いが所属する革マル派についてやり取りをしたことを証言している。裁判を通じ、このような驚愕的な事実が次々と明らかになるだろう。

(被告側代理人)本間さんは、2002年10月31日にJR東労組の中央執行委員をお辞めになりましたね。(本間)はい、そのとおりです。(代理人)そのあと、私物を取りにJR東労組の本部に行ったということがありましたか。(本間)あります。(中略)-(代理人)そのとき、石川さんと何かやり取りをしたということがありましたか。(本間)ありました。(代理人)どんなやり取りがあったんでしょうか。(本間)-(前略)-私の前に石川さんが来て、辞めてもいいけれども、反スタは忘れるなどというふうに私に言いました。(代理人)反スタというのは、どういうことでしょうか。(本間)革マル派の理論の反帝・反スタという中心的な理論がありますけれども、スターリニズムに反対をするという意味です。(代理人)-(前略)-辞めてもいいけど反スタは忘れるなどというのは、どういう意味でしょうか。(本間)組合の役員を辞めるというなら辞めてもいいけど、反帝・反スタというその革マルの思想は捨てずにそのまま生きていけという意味だと受け止めました。(代理人)ということは、その時点、2002年の11月ですけれども、本間さんも石川さんも、お二人とも革マル派のメンバーであったし、そのことをお互いに相手がそうだと知っているということでしょうか。(本間)そうです。

検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報[号外] 2009年10月13日 発行 日本鉄道労働組合連合会(JR連合)【No. 55】

本間氏は松崎氏が「正当な革マル派は我々だ」と述べたと証言！

前号では、東労組元中央執行委員の本間雄治氏(現JR労組委員長)が「週刊現代裁判」(2009年3月3日)の証人尋問で、東労組前委員長の石川尚吾氏が「反スタは忘れるな」とお互い革マル同士という立場を前提に話をしたと証言したことを紹介した。本間氏の証言では、さらに、東労組元会長の松崎明氏から、革マル派の方針について話を聞いたという、以下の驚くべき内容も明らかにされた。

(被告側代理人)松崎明さんから、革マル派との関係について話を聞いたことがありますか。(本間)あります。(代理人)どこでお聞きになったことがありますか。(本間)伊東のさつき会館です。(代理人)もしご記憶でしたらで結構ですが、いつ頃だったのかという、覚えているところがありますか。(本間)2000年後半か中頃くらいまでですかね。(代理人)そうすると、JR内革マルと革マル中央との間の対立があった後ということですか。(本間)そうです。(代理人)松崎さんから聞いたお話というのは、どんな話だったですか。(本間)党がおかしくなったと。本来の正当なといいますが、正しい理論でやっているのは我々だという中身を聞いたことを記憶しております。(代理人)党というのは、革マル派のことですか。(本間)そうです。(代理人)正当な革マルだということをおっしゃったんですか。(本間)そういう内容だと思います。(代理人)そういうお話というのは、どういった機会にされたんでしょうか。(本間)学習会です。(代理人)さつき会館で学習会がされた。(本間)そうです。(代理人)そうすると、酒の上の話とかそういうのではなくて、きちんとした学習の場で、その話がなされたということですね。(本間)そうです。(代理人)それを聞いたのは、本間さん以外にどんな方がいらしたのか、ご記憶の範囲で教えていただけますか。(本間)何度も聞いていますけれども、私もあまり定かではありませんが、今名前に挙がっていた石川さんはおりました。(代理人)それは記憶があると。(本間)はい。(代理人)そういう話をするということは、松崎さん自身も、そのお話の時点では革マル派だったということなんでしょうか。(本間)そういう認識です。

2000年は、革マル派が機関紙「解放」などでJR総連・東労組を非難し、九州労大量脱退事件や坂入事件など、両者の「対立」を窺わせる奇怪な事件が発生した年だ。本間証言からみて、伊東さつき会館で行われていた学習会は、JR革マルのものであることは疑いが無い。ここで松崎氏が述べた「党がおかしくなった」「正しい理論でやっているのは我々だ」とは、「正当な革マルは党中央ではなくJR革マルだ」という意味に他ならないだろう。この証言が事実なら、松崎氏はJR革マルを率いる革マル派最高幹部であることになる！

JR革マル派の学習会に石川氏も出席！他には誰がいたのか？

学習会には、相当高いランクの活動家が参加していた可能性が高い。本間氏は学習会の参加者として石川氏の名前を挙げたが、他にもJR総連関係の役員らが多数いるはずだ。また、松崎氏の他にも講師はいたのか、何を学習していたのかなど、興味は尽きない。革マルの党中央とJR革マルとの話し合い(No.46、47参照)への参加者を含め、今後、「JR革マル派43人リスト」等の裁判を通じ、実態がさらに明らかになるだろう。

なお、松崎氏については、後ほど、詳細に検証を進めていくこととする。

検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報[号外] 2009年10月14日 発行 日本鉄道労働組合連合会(JR連合)【No. 56】

警察はJR総連・東労組への革マル浸透の懸念強める！

すでに紹介した通り、2006年5月12日の内閣答弁書で、政府は「革マル派は、現在、将来の共産主義革命に備えるため、その組織拡大に重点を置き、周囲に警戒心を抱かせないよう党派性を隠して基幹産業の労働組合等各界各層への浸透を図っており、例えば、JR総連及びJR東労組内において、影響力を行使し得る立場に革マル派活動家が相当浸透していると見られるところである」との見解を明らかにした(No.1参照)。

そして警察庁は、広報誌「焦点」(平成11年通巻258号)において、「過激派集団革マル派～見えてきたその正体～」と題し、同派の実態を詳しく分析した特集を組んだ。その中で「同派は、革マル派の実態について論評や批判を行おうとする個人、団体に対しては組織を挙げた反論キャンペーンを張るなど言論の封じ込めを図る活動を展開しています」(p.6)と述べ、JR内の革マル派の動向を取り上げた「JRの妖怪」の著者小林峻一氏宅から取材メモやフロッピー等が盗まれた事件(1996年)、JR東労組と対立関係にあった労組幹部宅に対する電話盗聴事件(1995年12月)、国労本部企画部長(当時)宅に対する侵入事件(1996年8月)などを紹介している。JRに関連して革マル派が引き起こした違法行為は他にも多数ある。革マル派が執拗にJR問題に関心を示し、違法行為も起こしてきた実態をみれば、JR総連・東労組と革マル派との密接な関係を疑うのは当然だ。

革マルの違法行為を懸念し、警察はJR総連・東労組の動向を注視！

上記「答弁書」では「革マル派は、労働運動を通じた組織の維持及び拡大を図るため、JR総連又はJR東労組と対立する労働組合及び旅客鉄道株式会社の関係者に対する住居侵入等の違法行為を伴う調査活動を行うこと等が懸念される」とも答弁した。そして、2009年2月発行の「焦点」(277号)には、過激派に関する記載の中で以下の記述がある(p.32)。

革マル派が相当浸透しているとみられるJR総連・JR東労組は、本年を「反転、攻勢」の年と位置付け、組合員を大量に動員し、JR東労組の組合員らによる組合脱退及び退職強要事件(注:浦和電車区事件)やJR東海労役員による窃盗事件(注:蒲郡駅事件)の被告人への支援活動に取り組み、11月1日には約4,300人を動員して都内でデモを実施しました。JR東労組は、自治体の議会が採択する「取調べの可視化の実現を求める意見書」に「強要事件は冤罪である」などと主張する文言を盛り込むことを企図して、JR東労組と関係を有する各級議会議員に働き掛けを行いました。革マル派は、今後、死亡した黒田寛一前議長の「遺志」の継承を訴えながら、大衆運動及び労働運動に取り組み、組織の維持・拡大を図るものとみられます。また、対立する組織・個人の動向を把握するために違法な調査活動を行ったり、JR総連、JR東労組等に浸透する過程において違法行為を引き起こすことが懸念されます。

警察はJR総連や東労組に「革マル派が相当浸透しているとみられる」と冠して、彼らの浦和電車区事件への支援活動等を過激派の項で解説し、革マル派が、違法な調査活動や、JR総連・東労組等に浸透する過程において違法行為を引き起こすことへの懸念も示した。「等」とは北海道労組や貨物労組等のことだろう。警察は、わが国の治安の観点から、革マル派とJR総連・東労組等の動向をいっそう厳しく注視していることは明らかだ。

「検証・JR革マル浸透と組織私物化の実態！」はJR連合ホームページに掲載中！ <http://homepage1.nifty.com/JR-RENGO>

検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報[号外] 2009年10月19日 発行 日本鉄道労働組合連合会(JR連合)【No. 57】

革マルアジトからJR関係資料が大量に押収される！

前号で、革マル派が執拗にJR問題に関心を示し、関係者への違法行為も引き起こしてきた実態や、警察はJR総連・東労組に対し、今も革マル派が相当浸透しているとみて、厳しく注視していることを検証した。これらの違法行為は、全国に点在する革マル派の「非公然アジト」の摘発で明らかにされてきた。本情報でも、1996年8月に警視庁公安部が摘発した「綾瀬アジト」からの押収資料に基づき作成したとみられる文書を紹介したが、その後も警察はいくつかのアジトを摘発し、同派のJR総連・東労組等への浸透に確信を深めているものと考えられる。2004年4月21日の読売新聞(朝刊)は、警視庁公安部が「深川アジト」を摘発し、JR総連内非公然組織の存在を明らかにしたことを報道した。

革マル派 JR総連内に非公然組織 教組にも 暗号「ヘーゲル」「ワトソン」

警視庁公安部が先月(注:2004年3月)、過激派「革マル派」の非公然アジトから押収した暗号文書を解読したところ、同派がJRの労働組合や教職員組合などに、それぞれ「ワトソン」や「ヘーゲル」といった偉人の名前などを付けた非公然組織を作っていたことがわかった。 公安部は先月25日、1997年に革マル派が起こした国労幹部宅への住居侵入容疑で、東京都江東区内のマンションの一室の「深川アジト」を捜索。暗号文書はパソコン用のフロッピーに保存されていた。公安部が約3週間かけて解読した結果から、同派はJRの労働組合「全日本鉄道労働組合総連合会」(JR総連)内に、「ワトソン」と呼ぶ非公然組織を作っていたことが判明した。 公安部は、JR総連内での組織拡大が目的とみているが、規模やメンバーなどは不明。(後略)

革マルがJRを狙う目的はどこにあるのか？

すでに「トラジャ」「マングローブ」などJR内の革マル組織の存在について検証してきたが、非公然組織「ワトソン」とは何を指すのだろうか。なお、記事中の「国労幹部宅への住居侵入」とは、1996年8月に革マル派が当時の国労M企画部長宅に侵入した事件のことで、革マル派が機関紙「解放」で「JR採用差別問題」等をめぐり国労を批判する記事を掲載していた最中に発生したもの。1998年10月13日の朝日新聞(朝刊)は事件を以下の通り報道したが、「練馬アジト」だけでJR関係資料が、何と、段ボール40箱分8千点あったという！彼らがこれほどJR問題に関心を示すのは、拠点組織であるJR総連・東労組への浸透、支配の維持、拡大がきわめて重要であるからこそだろう。

革マル派 JR連合系労組も狙う？ 幹部宅侵入・盗聴の疑い

国労(高橋義則委員長、2万8千人)の本部書記長宅に過激派・革マル派の非公然活動家が忍び込んだとされる事件で、警視庁公安部は12日、住所不詳のN容疑者について住居侵入容疑で逮捕状を取り、全国に指名手配した。東京・練馬の革マル派アジトから公安部が今年1月に押収した約5千巻のカセットテープや約300個巻のビデオテープから、JR連合系の労組幹部宅への侵入や盗聴の疑いがあることも新たにわかった。 調べでは、N容疑者は数人の活動家と共謀して1996年8月末ごろ、東京都港区にある国労本部のM書記長宅に忍び込んだ疑い。練馬アジトから押収した資料は段ボール箱約120箱分あったが、国労やJR関係の資料は3分の1にあたる約40箱分、約8千点にのぼるといふ。(以下は次号に記載)

検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報[号外] 2009年10月21日 発行 日本鉄道労働組合連合会(JR連合)【No. 58】

驚くべき革マルの違法活動の能力！JR連合会長も被害受ける！

まず、前号で紹介した1998年10月13日の朝日新聞(朝刊)記事の続きを紹介したい。

革マル派 JR連合系労組も狙う？ 幹部宅侵入・盗聴の疑い

(前略) 調べでは、カセットテープにはJR連合系労組幹部の電話のやりとりや室内の様子が録音されており、ビデオテープには幹部宅の室内の様子が写っていた。自宅などに侵入して書き写したとみられる労組の内部資料も見つかったという。公安部は、革マル派が国労だけでなく、JRをめぐる労働運動に強い関心を寄せ、情報収集をしていたとみている。

そして、警察の捜査により、侵入事件の真相が解明され、翌年には革マル派の非公然活動家が逮捕された。1999年7月8日の毎日新聞(夕刊)には次の記事が掲載された。

「革マル」活動家侵入容疑で逮捕 JR西労組幹部宅

JR西日本労組の幹部宅に侵入したとして、警視庁公安部は8日、過激派「革マル派」の非公然活動家で東京都、H容疑者を住居侵入容疑で逮捕、同派非公然活動家のO、A両容疑者を同容疑で全国に指名手配した。調べでは3容疑者は1996年11月中旬ごろ、仲間数人と労組の資料などを勝手にコピーする目的で、当時、JR西日本労組委員長だった矢後希悦さん(61)の兵庫県尼崎市の自宅に合いかぎで数回にわたり侵入した疑い。同労組の住所録や会議録など数百枚をコピーしていた。矢後さんは91年から6年間、JR西日本労組委員長を、92年から1年間、JR連合の初代会長を務めた。(注:記事中の「JR西日本労組」は「JR西労組」の誤り)

本人もまったく気付かない巧妙な革マルの違法行為の手口！

警察は革マル派非公然アジトの摘発、捜索によって事件の存在を知り、矢後氏に連絡した。そして、大量に押収された預金通帳や手帳のコピーなどの資料を現物と照合した結果、本物であることが判明したというのだ。革マル派非公然活動家は、矢後氏が出張不在中に、複数回、合鍵を使って悠然と屋内に立ち入り、書類をくまなくコピーしたうえ、侵入前と同じ状態にして立ち去った。矢後氏本人は、彼らに侵入されたことについて、警察に指摘されるまでまったく気付かなかったというから驚きだ。

このほか、先に示した「JR東労組と対立関係にあった労組幹部宅に対する電話盗聴事件」(No.56)とは、1995年12月に東労組の非民主的な組織運営に反発し、旧鉄労系の組合員が新潟地区を中心に集団脱退してJR連合系の「JRグリーンユニオン」(現・JR東日本ユニオン)を結成した際に、鉄労の清算組織「鉄労友愛会議」のS議長宅を、革マル派の非公然部隊が盗聴したという事件。西岡研介著「マングローブ」に詳細が記載されている(p.211)。オウム真理教対策で警戒中、警視庁が深夜、男女3人が乗車し路上に長時間停まっていた自動車を不審に思い調べたところ、車内の盗聴道具や電線に仕掛けられた盗聴用発信機が見つかり、電話線を辿ったところ、S氏自宅の盗聴が発覚したという。

住居侵入や電話盗聴など、違法行為を巧妙に、平然と敢行する革マル派の高度な能力には驚くばかりだ。そして、彼らの違法行為の対象はJRに向けられている。わが国の治安問題として、そのような反社会集団の存在を許してはならないのは当然だ。改めて、JRへの革マル浸透問題の危険性、重要性を再認識する必要がある。さらに検証を進めたい。

「検証・JR革マル浸透と組織私物化の実態！」はJR連合ホームページに掲載中！ <http://homepage1.nifty.com/JR-RENGO>

検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報[号外] 2009年10月27日 発行 日本鉄道労働組合連合会(JR連合)【No. 59】

革マル「豊玉アジト」はJR連合や国労を探る拠点か！？

前号、前々号で紹介した、警視庁公安部が1998年1月に摘発した練馬区内の革マル派非公然アジトを、警察は「豊玉アジト」と呼んでいる。既出の革マル派を特集した広報誌「焦点」(258号)では、「非公然アジト『豊玉アジト』の実態」として、次の通り記載している。

平成10年1月、警察は、東京都練馬区内において、革マル派の非公然アジト「豊玉アジト」を摘発しました。このアジトには、偽造した警察手帳や公安調査官証票のほか、14,000本にもものぼる鍵、約400本の印鑑、大量の工具類や文書類、さらに、9年5月、神戸市須磨区で発生した小学生殺人及び死体遺棄事件(以下、神戸事件と言う。)の検事調書を写しとったと思われる文書を記録したフロッピーディスク、室内を盗聴して録音したと思われるカセットテープ等同派による違法行為を証明する品々が大量に隠されていました。これらの品々は、同派が、組織的に、他人の居宅等に侵入して物を盗んだり、盗聴器を仕掛けたりするなどの違法な調査活動を行うために使用、あるいは、それにより入手されたものとみられます。

「豊玉アジト」からJR関係資料が段ボール40箱分8千点押収されたことは前々号で述べた。西岡研介著「マングローブ」(講談社)は、同アジトについて「革マル派の非公然部隊が、住居侵入や盗聴などあらゆる非合法手段を駆使し、国労やJR連合の情報収集を行っていた実態が明らかになった」と解説している(p.226)。

なお、「豊玉アジトが入っていた練馬区の6階建ての雑居ビルには、『松崎の側近』といわれる、JR東労組の女性幹部の名義で借りている部屋があったことが、公安部の調べで判明している」とも記載しているが、これは、とても偶然とは思えない。

荒唐無稽な「少年A冤罪説」を唱える革マルと東労組！

革マル派が異常な関心を示す神戸事件とは、有名な「少年A」による連続児童殺傷事件である。「焦点」は、警察は押収品を基に「少年A」の検事調書等を盗んだ事件など、神戸事件に関して同派が敢行した多くの違法行為を解明したことを記載している。また同誌は「荒唐無稽な『権力謀略論』と題し、「(革マル派は)神戸事件について、『少年犯行説はデッチあげ』、『CIA主導の謀略的権力犯罪』などとおよそ健全な国民には理解されないような荒唐無稽な主張を機関紙等で展開しています」と解説し、「内ゲバ」を「権力の謀略」と述べていることにも言及した。JR総連も「内ゲバ」に対し、革マル派と同じ主張をしていることはすでに検証したが(No.19参照)、「マングローブ」では、神戸事件に関して「少年A冤罪説」を唱える東労組役員がいることを、以下の通り紹介している(p.221)。

- (前略) - 驚くべきことに革マル派が唱えた「少年A冤罪説」を追認していた集団がある。ほかでもない、松崎に支配されたJR東労組だ。JR東労組の若手組合員が証言する。「-(中略)- JR東労組が主催した広島での『平和学習』に参加したことがあったのです。参加者が東京に集まって、バスで広島に向かったのですが、そのバスに乗っていたJR東労組の“偉い人”がバスの中で演説中、『少年Aは冤罪だ。あの事件は国家権力の謀略だ』などと言い出したのです。-(後略)-

JR総連・東労組の組合員の読者で、同じような経験をした方はいないだろうか。もしそのような役員がいたら、革マル教育で相当洗脳されているとみるのが自然だろう。

検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報[号外] 2009年10月28日 発行 日本鉄道労働組合連合会(JR連合)【No. 60】

警察無線を傍受し武器も製造！革マルの危険性を認識しよう！

今号では、革マル派の高度な違法調査活動について検証したい。既出の革マル派を特集した広報誌「焦点」(258号)では、「警察無線の傍受、盗用による各種調査活動」として、同派の非法な調査活動の実態について、次の通り記載している(p.14)。

平成10年4月、警察は、千葉県浦安市内において、革マル派の非公然アジト「浦安アジト」を摘発しました。このアジトには、警察無線を傍受するための無線機12台、再生機(暗号解読機)11台及び録音機20台が設置されていたほか、無線の内容を録音したカセットテープ約5,000本や多数の資料が隠されていました。無線機のアンテナは、一見分からないようにベランダに置いてある植木のつるを絡ませるなどの偽装を施し、設置されていました。このアジトで、同派女性活動家が、日夜、警察無線を傍受していたのです。革マル派は、警察無線を傍受することにより、警察の諸活動をくぐり抜けながら、警察や対立する団体、個人等に対する非合法手段による調査活動を組織的に行っていたものとみられます。

西岡研介著「マングローブ」(講談社)では、この件について「警察デジタル無線まで傍受」との見出しで、以下のようにさらに詳しく解説している(p.234)。

「-(前略)-革マル派は、浦安市内の同じマンションの8階と11階にアジトを持っていたが、11階の部屋に踏み込んだときには、まさに6人の女性活動家がデジタル無線を傍受している最中だった。彼女らは無線傍受を担当する専門要員で、彼女らがヘッドホンをかけ、再生機や録音機を操作している姿を見て、技官は言葉を失っていた」(警察当局関係者)。警察庁情報通信局が「傍受されるわけがない」と言い張ったのもむりはない。デジタル無線は警察庁が威信をかけて開発した「世界でも屈指の傍受困難な通信手段」だったからだ。

そして同書は、こうした高度な調査活動を、50名以上の非公然活動家で構成される革マル派「情報調査部」が手掛けている実態についても記載している(p.236)。

革マルアジトから「JR東海経営陣は辞任せよ！」との模造紙も発見！

革マル派の高度な調査能力と執念には驚くばかりだ。このほか、前出「焦点」では、「武器製造非公然アジト『厚木アジト』の実態」として、1998年11月に摘発した同アジトで、旋盤機、万力等の大型工作機械のほか、約150本の鉄パイプ、約60本の鉄棒入り竹刀、防護用小手、サバイバルナイフ、なた、まきびし等の凶器等が隠されており、これらが内ゲバ事件で押収された凶器に類似していることを紹介し、「革マル派は、今もなお、こうした凶器を製造、保管しており、同派の本質は何ら変わっていないことが判明したわけです」と分析している(p.18)。今日の日本で、違法な調査活動や武器製造を続ける非合法組織が存在する事実を認識し、私たちは、国の治安問題として毅然と対処しなければならない。

厚木アジトでは「社員をナメルナ JR東海経営陣は辞任せよ！」と書かれた模造紙が発見されたが、これは革マル派がJR労働運動に深く関与している何よりの証拠だ。前述のJR東日本松田相談役が受けた家族への嫌がらせやJR東海葛西会長への奇怪な攻撃(No.42参照)について、同派の関与を疑わざるを得ない理由がお分かりいただけるだろう。

「検証・JR革マル浸透と組織私物化の実態！」はJR連合ホームページに掲載中！ <http://homepage1.nifty.com/JR-RENGO>